

緑化だより

No.129 平成29年7月号



キカラスウリ

- 季節の花(アカメガシワ)
- 小さな世界こけ
- 昆虫の話(ミヤマクワガタの災難)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ひろしま 緑化の 未来

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

アカメガシワ

「ぬばたまの 夜(よ)の更(ふ)けゆけば

久木(ひさき)生(お)ふる 清き川原に 千鳥しば鳴く」

山部赤人 万葉集 巻6:925

「夜がふけていくと、あかめがしわが生い茂っている清い川原に

千鳥がひっきりなしに鳴いているよ」

この歌は天平7年(725年)、聖武天皇が吉野離宮へ行幸された折に詠われたもので、「ぬばたま」はヒオウギという植物の種子が黒いことから、「ぬばたまの夜」、すなわち暗闇を表している枕詞です。夜更けに昼間の情景を思い起した静かな歌は、山部赤人の傑作とされています。「ひさき」はアカメガシワの古名。葉は大きく、昔は食物を葉に盛るのに利用したことから、五菜葉(ごさいば)、菜盛葉(さいもりば)、味噌盛葉(みそもりば)などの方言で呼ばれる所もあります。縄文時代後期の土器の底に、アカメガシワの葉のあとが残っているものが出土しています。

アカメガシワはトウダイグサ科の樹木で、本州(岩手、山形県が北限)、四国、九州、沖縄、東南アジアに分布しています。山野に自生する落葉高木で、新芽が赤く美しく、葉がカシワの葉に似ていることからアカメガシワと言われます。雌雄異株で、夏、枝先に花が咲き、雄花も雌花も花弁がなく、雄花は沢山の雄しべに囲まれ、淡い黄色の丸いボンボンのようなです。雌花は緑色で雌しべの先が3つに分かれて受粉が終わると子房に柔らかいトゲが生えてきます。

樹皮がはがれやすく、初夏に太い枝の皮を採取し、陰干しにしたものを胃腸薬や下痢止めに利用されます。また、赤い若葉や種子から赤色の染料が取れます。材は緻密で床柱、下駄、琴の材料として、とても有用な植物となっています。また成長が早く生命力がある樹木で、伐採跡地、崩壊地、林縁などの明るいところに生え、緑化センターの園内でもよく見られます。(上村)



アカメガシワの雄花



アカメガシワの雌花

小さな世界こけ

樹木に着生するコケ

樹木の幹を見るといろいろなコケが着生しています。木の枝にぶら下がっているキヨスミイトゴケ、木の根元にはホソバシラガゴケ、ハイゴケ、胸の高さ付近にはコモチイトゴケ、ミノゴケ、サヤゴケ、コダマゴケなど。時にはいくつかの種類がせめぎあって着生していることもあります。肉眼で確認できるものもあれば、ルーペを使用しないと確認しにくいものもあります。今回その中からいくつかご紹介します。

新緑の時期、緑化センターの入り口はモミジのトンネルで薄暗いほどです。モミジの間にはツツジが植えられていますが、その枝にカーテンのようにぶら下がっているのはキヨスミイトゴケです。樹木の枝に絡まったように長く垂れ下がり、谷川沿いの湿度の高い場所に生育します。名前は千葉県清澄山に由来します。



キヨスミイトゴケ

ミノゴケは乾燥気味の樹木の根元や太い枝に群落を作ります。乾燥しているときは葉が内側に巻き込みますが、雨上がりを見ると、横に這った枝から行儀よく並んだ株が見られます。孢子体の帽子には毛があり、蓑をかぶっている様にみえることが名前の由来です。



ミノゴケ(雨上がりの葉)



ミノゴケ(乾燥時の葉と蒴)

コダマゴケは樹幹や石灰岩によく見られるコケで、濃い緑色の小さなかたまりが着生しています。乾燥に耐えるコケで、乾燥しているときは、葉が茎にそってつき、その間から溝のあるつり鐘のような帽子をつけた卵型の蒴が顔をだしています。蒴柄は短いため、葉に隠れて見えません。(山根)



コダマゴケ

昆虫の話

ミヤマクワガタの災難

夏の盛り、コナラの木にある樹液酒場にはたくさんの虫たちが集まってきます。カブトムシをはじめ、スズメバチやゾウムシなど様々な種類の昆虫が我先にと、おいしい樹液を求めいい場所を奪いあっています。今回の主役、ミヤマクワガタも樹液酒場でくだをまく、飲んだくれの仲間です。

ミヤマクワガタは、くし状の鋸歯のある大あご、頭部の耳のような突起、体を覆う金色の毛が特徴のクワガタムシです。漢字で「深山鋸形」と書き、高くて深い、涼しい山に生息しているようですが、広島県では海のすぐ近くに山があるからなのか、沿岸部沿いや広島市内でもたくさん見る事ができます。こんな身近な彼らなのですが、その生活には多くの災難があるのです。



ミヤマクワガタ

たとえば、樹液の出る木の周りで虫を探して歩いていると、特徴的な彼らの頭だけがたくさん落ちています。カラスなど天敵の鳥に食べられてしまったのです。夜行性の種が多いクワガタムシにはめずらしく、彼らはエサや交尾相手を求めて昼も夜も活発に活動します。クワガタ採りに出かけ、大きく立派な頭が落ちてしていると残念な気分になってしまいます。

また、彼らはだんだんとノコギリクワガタに生息地を追いやられているといわれています。温暖化によりノコギリクワガタの生息地が拡大する一方で、エサを巡る闘争でミヤマクワガタは負け越してしまっているという研究があります。上手投げの得意な彼らは相手に上をとられないよう、姿勢を高くして相手を牽制します。ミヤマクワガタ同士なら上手くいく戦法も、すくい投げができるノコギリクワガタには逆効果、下から簡単に大あごを入れられ投げ飛ばされてしまいます。そのうえ、カッコイイ彼らは人間にも人気です。苦労してたどり着いた樹液酒場で酔っ払っていると私たちに捕まってしまうのです。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| <p>○ 7月2日(日) 『7月の自然探勝』
梅雨の合間の植物たち
※ 自由参加・無料</p> | <p>10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：環境省希少野生動植物種
保存推進員
吉野 由紀夫</p> |
| <p>○ 7月2日(日) 『絵手紙教室』
木々の葉のかたちで楽しもう
※ 要予約(先着30名)・材料費300円</p> | <p>13:00～15:00 学習室 集合
講師：日本絵手紙協会公認講師
香川 道子</p> |
| <p>○ 7月9日(日) 『夏のきのこ教室』
梅雨時のきのこを観察
※ 自由参加・無料・採集かご持参</p> | <p>10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章</p> |
| <p>○ 7月17日(月・祝) 『藍のトントン染め』
藍の生葉でハンカチを染めよう
※ 要予約(キャンセル待ち)・500円</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンスインストラクター
山縣 圭子</p> |
| <p>○ 7月23日(日) 『夏休み昆虫教室』
講師と一緒に園内の昆虫を採集しよう
※ 要予約(キャンセル待ち)・無料・採集用具持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛</p> |
| <p>○ 7月23日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫標本作りを学びましょう
※ 要予約(キャンセル待ち)・材料費1,000円</p> | <p>13:00～15:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎</p> |

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・七宝焼作品展「七宝焼同好会」
～7月23日(日)
- ・手作り作品展「モーモーアート」
7月26日(水)～9月9日(土)

(ボード展示)

- ・広島ボタニカルアート ソサイエティ展
～7月2日(日)
- ・愛鳥週間原画コンクール入賞作品展
7月4日(火)～8月9日(水)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・7月は月曜日が休園日です
- ・土・日・祝日は17:00まで
延長して開園します

～森林公園イベント情報～

- 7月2日(日) セタメンコで遊ぼう
- 7月16日(日) ファミリーコンサート
- 7月23日(日) スイカ割り大会
- 7月29日(土) 夜間開園「森のきもだめし」
- 7月30日(日) 元気顔ガオー森のコンサート



七宝焼作品展より



愛鳥週間原画コンクール
入賞作品より